

オリエンタルコンサルタンツグローバルらが、東南アジア諸国連合（ASEAN）の加盟国で検討段階にあるスマートシティプロジェクトの関連業務4件を受注した。「スマートジャンプ事業」を推進する国土交通省が交通情報分析業務などを発注。同社を含む日本の建設コンサルタントがスマートシティの推進に向けた体制整備に協力する。4件の受注額は非公表。スマートジャンプ事業は、ASEAN各国で展開されるスマートシティ開発で参画を目指す日本企業を後押しする支援パッケージ。本年度は同事業に基づき、▽ジャカルタ（インドネシア）▽バンコク（タイ）▽セブ（フィリピン）▽プノンペン（カンボジア）の4都市を対象に開発を支援する。

## スマートシティ開発 ASEAN4都市で支援 オリコンサルグローバルら

ジャカルタは、地域公共サービス機関が構築するマルチモーダル交通を利用したビジネスモデルの展開を支援。オリコンサルグローバルが単独受注した。バンコクはスマートシティ構想の実現を目指す「バンスー中央駅」周辺エリアを対象に実行計画の立案業務などを行う。受注者はオリコンサルグローバル・URLインケーJ<sup>®</sup>。セブは人工知能（AI）による映像分析技術などを駆使し交通解決に向けた方策などを探る。オリコンサルグローバル・交通計画J<sup>®</sup>が受注した。プノンペンはパシフィックコンサルタンツ・国際開発センター・オリコンサルグローバル<sup>®</sup>が業務を受注。バスの到着時刻などを表示する「スマートバスシェルター」の設置や実証実験を行う。